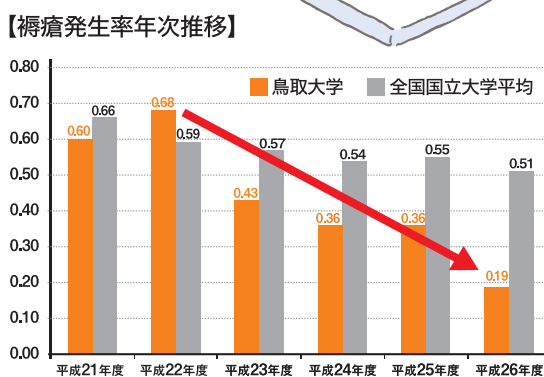


褥瘡(じよくそう)を防ぐ取組み

新たな傷をつくらず 退院していただく

じよくそう
褥瘡とは？
褥瘡(じよくそう)とは一般的に「床ずれ」ともいわれます。寝たきりや車いすの生活で、背中やお尻などの接する部分に長時間に渡り、圧迫やずれが生じると血液の流れが悪くなり、皮膚がただれたり、傷ができてしまうことをいいます。



この度、鳥取大学医学部附属病院における

平成26年度の「褥瘡発生率」が、

全国42の国立大学病院中で最も低かったことが、

国立大学病院看護部長会議から報告されました。

褥瘡に対する当院の取組みをご紹介します。

褥瘡対策の重要性

生活の質を維持し、感染症を予防。
長期入院による経済的負担の軽減。

褥瘡は、「医療の質」や「看護の質」を客観的に評価するための重要な指標の一つです。褥瘡ができると患者さんの生活の質を低下させ、感染症の危険性も高まります。入院期間の長期化につながり、患者さんの経済的負担も増大します。

当院では、形成外科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、理学療法士・作業療法士、管理栄養士など多職種からなる「褥瘡対策チーム」を中心に、NST(栄養サポートチーム)など院内の他の医療チームとも連携しながら、組織横断的に褥瘡治療及び予防ケアを行っています。



褥瘡回診メンバー

看護部の取組み

院内研修・認定試験に合格した421人の褥瘡専任看護師を全部署に配置。

当院に在籍している3名の皮膚・排泄ケア認定看護師のうち1名が専従で活動しています。また、院内研修・認定試験に合格した421人の褥瘡専任看護師を全部署に配置しています。そのうち、各部署の代表がスキンケアリンクナースで、現場で中心となって褥瘡対策を行っています。新人教育、褥瘡ケアコース研修、外部講師による全体研修を行い人材育成に取り組んでいます。

入院患者さんに対するケア

定期的な褥瘡の危険性を把握し、個々の患者さんの状態に応じたケア。

入院されている患者さんに対し、褥瘡ができないように努めることはもちろんですが、日々、患者さんの皮膚の状態を観察し、変化に気づいたらすぐに適切なケアを行います。入院時から定期的に褥瘡の危険性を把握し、個々の患者さんの状態に応じたマトレスの選択、スキンケア、失禁ケア、栄養管理、リハビリ、創傷ケアなどを行っています。

昨年、看護部とリハビリテーション部で全身用・座用の体圧測定器を購入し、体重のかかり方を客観的に評価し、患者さんに合った体圧管理をするようになりました。さらに、各部署には簡易型の体圧測定器を配置し、看護師が定期的に患者さんの体圧を測ってケアをしています。このように客観的なデータに基づいた予防ケアが褥瘡対策に一定の効果を上げているのではないかと考えています。また、看護師と理学療法士が連携し、患者さんの個別に応じたベッド上、椅子上の姿勢を考えて実践しています。力任せの移動介助ではなく、患者さんにも優しい介助方法を実践するため介助用グローブなどを積極的に活用しています。

褥瘡発生の危険性が高い方、褥瘡が発生した場合や褥瘡治療で入院された方には、褥瘡対策チームが中心となって治療を行います。週1回定期的に病室訪問し、患者さんにとってよりよい治療方法を多職種で検討しケアを行います。

退院される患者さんには、医療福祉支援センターと連携をとり、退院後の褥瘡予防・治療について支援をしています。

地域との連携

在宅の患者さんに対して、地域の病院と連携しての予防管理、褥瘡ケア。

褥瘡に苦しむ患者さんの最後の砦として、形成外科外来では「傷とケアの専門外来」として褥瘡治療ケアや再発予防を行っています。積極的に根気強く適切な治療を行う一方で、地域の病院と連携して予防管理、褥瘡ケアに取り組んでいます。

この秋からは、褥瘡専任看護師が訪問看護師と共に褥瘡のある患者さんの自宅に訪問し専門的なケアを行う活動を始めています。これからもより質の高い褥瘡ケアが提供できるよう褥瘡対策チームを中心に病院全体で取り組みを続けると共に、地域とも連携しながら、地域全体の褥瘡対策の質の向上に向けて取り組んでまいります。



褥瘡回診の様子



スキンケアリンクナース会

とりだい病院の「ダヴィンチ手術」

外科系診療科の壁をなくした横断的な診療体制により

500症例達成



ロボット支援手術
500症例記念の盾

内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」は、低侵襲で患者さんの心身への負担が少なく、また手術をする医師の技術をさらに助けるものです。当院では平成22年10月から導入しています。それに伴い外科系診療科が「ダヴィンチ」を共有し、低侵襲手術の技術向上と教育を図るため低侵襲外科センターを立ち上げました。当院は外科系診療科の壁をなくし、ロボット支援手術に関わる多数の職種が連携する、横断的な診療体制により、透明性の高い安全な治療を進めています。この様な体制のもと、当院の手術件数は平成27年9月末時点で500例となりました。重とくな合併症発生率は極めて低く、また、機器トラブルによる手術中止などありません。導入以降「ダヴィンチ」手術に対するスキルとチーム力アップを徹底してきたことが、安全で質の高い治療につながっていると考えます。



定期開催しているダヴィンチ手術手技検討会の様子

複数科医師、看護師、コメディカル、事務職員等が参加。鳥大病院では独自の術者、術式認定制度があり、技術力の向上に努めている。



【500症例の内訳】

耳鼻咽喉科 10例 泌尿器科 339例
女性診療科 29例 胸部外科 75例
消化器外科 47例

※泌尿器科による前立腺がんの全摘除術は保険適用されている。

とくだい
病院発

血糖値測定器

データ転送
アダプター

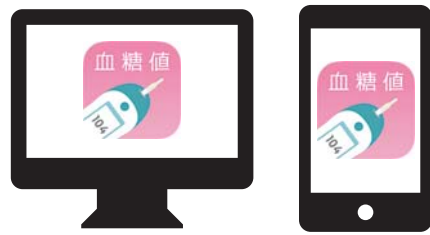
迅速で正確な患者さん対応をサポート

血糖値管理システムを企業と開発

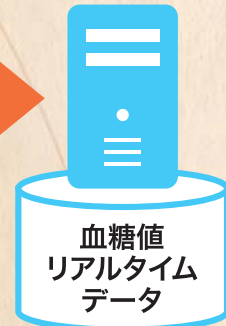
鳥取大学医学部附属病院では、ソフト開発企業の(株)eBase Solutions Laboratoryと「血糖値管理システム」の共同開発に成功し、運用を開始いたしました。(特許出願中)

血糖値アプリ

各種スマホ・PC対応



電子カルテシステム



合同取材の様子

◎ 血糖値管理とは

血糖値とは血液中に含まれるブドウ糖の濃度です。血糖値の異常な増減は、体に悪影響をもたらすため、糖尿病の治療では、血糖値の管理が重要となります。特に入院中の患者さんでは手術による合併症や感染症の悪化を防ぐため厳格な血糖コントロールが必要です。

◎ 現場の声から誕生

従来は、看護師が血糖値測定を行った結果を電子カルテに手入力していました。この方法では血糖測定忘れや誤入力、また測定から入力までに時間のズレが生じやすいなどの課題があり、医療安全の面からも改善が望まれていました。

◎ 企業との連携で実現

本院の内分泌代謝内科副科長の大倉毅医師を中心に、課題解決のため、タブレット端末用のシステムを(株)eBase Solutions Laboratoryと共同で開発。医療現場の意見を取り入れた新しいシステムでは、測定器から得た結果をリアルタイムに電子カルテに反映することが可能となりました。測定時間の管理や個人認証、測定結果によっては対象患者さんへの処置表示の機能も備わっており、正確で迅速な患者さんの対応につながります。今後は在宅利用への展開も含め、さらなる開発をすすめてまいります。

次世代高度医療推進センター

本田技研工業(株)との共同研究

～災害拠点病院としての機能強化に向けた取り組み～

次世代高度医療推進センターでは、本田技研工業(株)の開発した外部給電用インバータ(Power Exporter 9000)の実証実験を実施し、濃縮酸素供給装置やポータブルX線装置など、さまざまな医療機器で、その高い電力品質を確認しました。実験に当たっては、各科医師、臨床工学技士(ME)、薬剤師など多職種からなるワーキンググループを立ち上げ、組織横断的に取り組みました。この技術が実用化され普及すると、電気自動車や燃料電池自動車の電力を外部へ供給することができるようになり、災害時の医療現場での活用が期待されます。



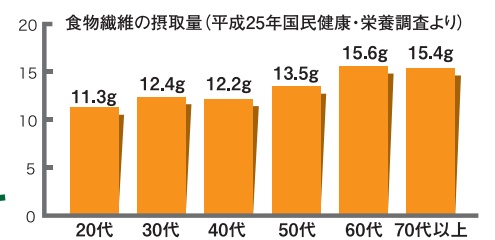
病気に負けない!! 予防栄養

第2回

食物繊維で
予防栄養

食物繊維は体の中で様々な良い働きをしてくれます。不足なくとり入れることが、健康維持にはとても大切です。

食物繊維を意識して食べていますか?1日に摂りたい食物繊維の量は男性20g以上、女性18g以上とされています。(日本人の食事摂取基準2015より)しかし、実際に摂れているのは上記のグラフのように少ない状況です。これは、穀物や野菜の摂取が少なくなっているためと言えます。



●腸内環境を整える

腸内細菌のエサとなることで善玉菌を増やし便秘改善につながる。

●肥満の予防

胃の中にとどまる時間が長く、食べ過ぎ防止につながる。

●糖尿病の予防

食後の糖の吸収を緩やかにし、血糖値の急上昇を防ぐ。

●脂質異常症の予防

コレステロールを吸着し、体外に出すことで血中のコレステロールを減らす。

食物繊維の働き



Tottori University Hospital Illumination

街を彩り、笑顔を広げたい

期間:2015年11月24日~2016年1月15日

クリスマスイルミネーションが輝く時期となりました。当院では、外来玄関前ロータリー帯にイルミネーションを設置し、11月24日点灯式を行いました。この取り組みは、病院を「パブリックスペース」として、地域の皆様に活用していただくことを目的に平成26年より実施しています。式では清水病院長が「患者さんの速やかな回復を願って、そして地域の皆さまに楽しんでいただきたい。」と挨拶し、カウントダウンの合図で一斉に点灯しました。動物や楽器を奏でる少女のイルミネーションをはじめ、今年は新たにビニール製の風船でできた高さ4mのドリームタワーが登場し、幻想的で優しい空間が浮かび上がりました。イルミネーションで冬の寒さも少し忘れて、笑顔が広がりますように…期間中は毎日17時から23時まで点灯します。

